

3 竹原市横大道8号墳出土銅鏡の再検討

諫早直人

1. はじめに

竹原市横大道8号墳は、無袖式の横穴式石室をもつ直径9mの円墳である。墳丘や天井の一部は失われ、石室内は盗掘を受けていたが、市史編さんに先がけておこなわれた発掘調査によって、須恵器長頸壺1点、土師器杯1点、鉄釘片18点などとともに1点の銅鏡(図1)が出土した。石室形態や出土遺物から横大道古墳群で最も新しい時期の古墳とみられている(藤田ほか1963)。玄室内だけでなく羨道側でもまとまった数の鉄釘が出土したことから、報告者は追葬のおこなわれた可能性を想定しており、石室閉塞石の間から出土したとされる土器と銅鏡は、追葬に伴う可能性が高い。

本資料は銅鏡研究の初期の段階からたびたび言及されてきた基準資料であるが、近年、鉛同位体比分析が実施された結果、日本列島産鉛が材料に用いられた初期の青銅製品としても注目を浴びている(表1)(澤田ほか2019など)。筆者も文化遺産学フィールド実習において竹原市を訪問した際、本銅鏡を初めて観察する機会を得るとともに、その重要性について認識をさらに強めた。また2021年2月2・3日に再度、竹原市を訪問し、再実測の機会を得たのでここに報告する。

2. 横大道8号墳出土銅鏡の観察

底部付近が一部欠損しているもののほぼ完形の平底無台鏡である(図1)。口径は遺存状態の良いところで15.9cm、器高は6.8cmで、重さは278.1gをはかる。全体に緑青が析出しており表面状態は良好ではないが、底部外面に鉛同位体比分析の際のサンプリングによって地金が露出しているところがあり、本来は金属光沢をもつ黄銅色であったことがうかがえる。

表1 日本列島出土銅鏡と四天王寺出土銅鏡の金属成分(諫早2021より転載)

地名	古墳名	器種	銅	錫	鉛	ヒ素	備考	出典
岡山	殿田1号墳	無台鏡A1a	62.0	16.3	20.7	0.4	6世紀末-7世紀初 /朝鮮半島産鉛	澤田ほか2011
鳥取	黒本谷古墳	無台鏡A1b	62.9	14.4	21.9	0.2	6世紀末-7世紀初 /朝鮮半島産鉛	澤田ほか2011
岡山	定北古墳	鏡蓋	73.4	23.4	1.7	0.3	7世紀中葉/ 朝鮮半島産鉛	澤田ほか2011
慶州	四天王寺西塔	無台鏡A1b	80.0	18.4	1.6	-	7世紀後葉	정민호ほか2013
岡山	荒神西古墳	無台鏡B1a	71.1	1.0	21.5	4.5	7世紀中葉/ 日本列島産鉛	澤田ほか2011
広島	横大道8号墳	無台鏡B1a	77.0	6.6	8.5	6.9	7世紀中葉/ 日本列島産鉛	澤田ほか2011
奈良	藤原宮SD170	無台鏡A1b or B1b	74.0	24.0	-	0.5	7世紀末-8世紀初	諫早・降幡2015
群馬	白山古墳	無台鏡A1b	68.2	30.1	-	0.6	7世紀末-8世紀初	諫早ほか2017
群馬	富士山1号墳	無台鏡A1b	71.5	26.7	0.3	0.1	7世紀末-8世紀初	長柄ほか2013

*数値は%

口縁部付近の内外面と胴部、底部の外面には複数の浅い凹線がめぐっているが、表面状態が良好でないため明瞭に視認しがたいものもある。口縁部内面は三角形に肥厚しており、最も厚いところで3.5mmである。胴部に向かって徐々に厚みを減じ、最も薄いところは1.2mmである。既往の実測図は胴部から底部にかけて一定の厚みで描いているが、実際は底部中央は3.2mmとふたたび厚くなる。本資料は銅を主成分とし、一定量の錫・鉛を含む典型的な三元系青銅であり、鑄造製品とみられるが、鑄造後に轆轤回転を利用して施文したとみられる凹線の存在から、器壁についても轆轤挽きによって薄く削りだしていた可能性が高い。なお、既往の実測図では胴部と底部の境に明確な稜をもっているが、実際には両者の境界はそれほど明確なものではない。

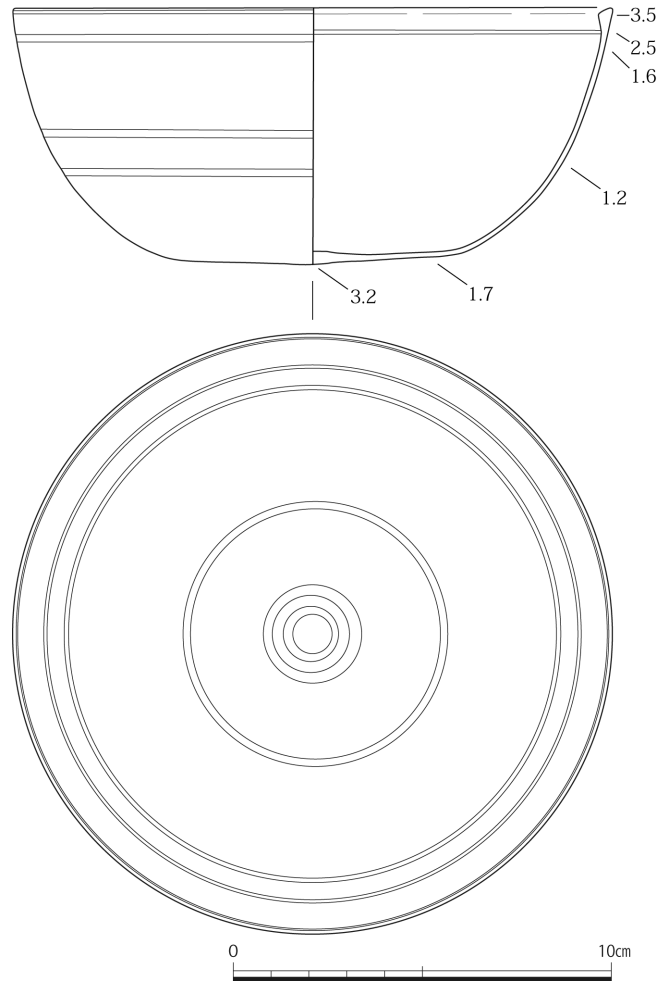


図1 横大道8号墳出土銅鉢 (S = 1/2) (数値の単位はmm)

3. おわりに

本資料は銅鉢研究の最初期から平底無台鉢の基準資料として取り上げられ、近年も、理化学的分析によって初期の日本列島製銅鉢の可能性が提示されるなど、その重要性はさらに高まっているが、実測図については当初作成されたものが更新されることはなかった。本稿では、器厚など当時はあまり重視されていなかった視点を加味した実測図を提示するとともに、肉眼観察で得られた知見を紹介した。一般に「佐波理」と呼ばれる銅・錫二元系高錫青銅の無台鉢の中には鑄造後、0.5mm前後にまで器壁を削り込めるものがあるのに対し、本資料の器壁は厚い。一定量の鉛やヒ素を含んでいることと関係するものとみられるが、紙幅も尽きたので改めて検討の機会をもちたい。なお本報告にあたって三輪宜生氏をはじめとする竹原市教育委員会の皆様には大変お世話になった。末筆ながら記して感謝したい。

参考文献

- 諫早直人 2021 「新羅の銅鉢—佐波理鉢出現への予察—」『日韓文化財論集IV』奈良文化財研究所・韓国 国立文化財研究所
- 澤田秀実・齋藤努・長柄毅一・持田大輔 2019 「中国四国地方で出土した銅鉢からみた国産銅鉛原材料の産出地と使用開始時期」『国立歴史民俗博物館研究報告』第213集
- 藤田等・本村豪章 1963 「竹原周辺の考古学的考察」『竹原市史』2 竹原市